

日本の女性

Cyrus Rolbin

Phillips Academy
Massachusetts, U.S.A.



学習者年齢： 13～18才
日本語レベル： 初級～中級
文化面の目的： 日本人女性に話を聞き、日本にも多様な女性像があることを学ぶ
学習する日本語： 日本人と話をする

学習目標

- ・日本人女性に直接意見を聞きながら、米国と同じように日本にも多様な女性像があることを学び、日本女性に関する固定イメージを崩す。
- ・文化理解のアプローチとして、自分が属する文化の価値基準に従って異文化を評価する文化的偏向（主義）ならびに異文化自体の持つ価値基準に従って評価する文化相対主義の2つの立場があることを学ぶ。
- ・ビデオが文化理解にとって有効な媒体でありながら、制作者の属する文化を基盤にした主観的な（文化的に偏向した）ものになりがちであることを学ぶ。

授業の進め方

<事前学習>

宿題としてThe Japanese Woman, Traditional Image and Changing Reality (岩男寿美子著)を事前に読ませる。

<進行方法>

1. ゲストの日本人女性（複数名）と生徒との間で日本語による自己紹介を行う。
2. 文化的偏向性と文化的相対性について復習する。
3. ビデオを見て、日本人女性のイメージにおける文化的偏向性と文化的相対性について話し合う。
4. ゲストの女性に、ビデオのことや

The Japanese Woman に関する意見を聞く。また、日本の言葉、性別、文化について質問し、米国と比較する。

5. 宿題エッセーのテーマ

- ・日本の女性について初めて知ったこと
- ・日本文化に関するイメージがどのように変わったか

<ビデオのあらすじ>

東京で一人暮らしをしているのりこが、休日に里帰りをする。両親の勧めでしかたなくお見合いをするが乗り気ではない。すでに結婚して子どもがいる同級生が登場するが、のりこは正反対の伝統的な日本女性として描かれ、ビデオでは赤ちゃんを抱いたまま黙っている。同級生の配偶者が、早く身を固めて落ち着くように、のりこに勧める。のりこが東京に帰り、仕事を得るところで終わる。

<ディスカッションの内容>

自由という言葉に敏感な米国の若者たちは、ビデオを見た直後、日本女性は結婚や家庭によって自由を奪われ、ろう屋に入れられているようだと言っている。ゲストの日本女性の中にはそれに同意する人と、ビデオが一部の日本女性のことしか語っていないと言う人とがいる。日本の主婦が家計を握っている一面は語られていないことを指摘して、ビデオが文化

的偏向に基づいて作られていることについて話し合う。また、なぜ男性だけが「私」以外に「僕」という一人称を使えるのかという質問から発展させて、自由や平等に対する意識の違いについて日米比較をしながら話し合う。

生徒の意見・反応

- ・新幹線やこたつなどに興味を抱く。
- ・日本人女性と話し、読んだ本の内容について意見を聞くことを通じて、本から得られる知識に一層興味を持つようになる。
- ・日本文化を学ぶことが、彼ら自身の日常生活を見直す上で有効であることに気づく。

外国語学習と文化理解

語いと文法の暗記練習ばかりのつまらない外国語の授業にたくない。日本語や日本文化を学ぶことは、面白くて意味のあることであり、生徒たちに新しい視点を与えてくれることを知ってほしい。日本の経済力を利用した金もうけのためではなく、生徒たちが自分たちの育ってきた文化的枠組を超えて、人生に対する見方や可能性を広げられるような授業をしていきたい。